

シンガポール教育視察団APUに驚きの声

シンガポールの小学校～大学、教育省の関係者12名を立命館アジア太平洋大学(APU)にご案内し、APUの学生との交流の機会を6月13日(水)頂きました。



アジアのグローバル先進都市シンガポールの教育関係者の方々にとっても、APUの多様性と先進性はやはり大きな驚きだった様です。わずか4時間の訪問でしたが、その間質問が途絶えることがなく、大学間の特別プログラム開発の可能性や多様な環境での自己アイデンティティに与え得る影響など広範な質問。何らかの成果を持ち帰ろうと言う意欲に溢れていました。

人材が最大の資源と考えるシンガポールの教育は日本よりも複雑で、幅広いニーズやレベルに対応できる制度のようです。同時にその多くは国家の責任のもと運営されており、プロテスタントの宗派名が付けられた学校も「公立」であり、教師は公務員だとの説明を受けた時には、これまでの常識とのギャップを埋めるのに少し苦勞したほどでした。

詰め込み教育はアジア共通の特徴であり課題なのだろうと感じました。

特に近年シンガポールでは"21st Century Competency"(21世紀対応力)というスローガンのもとグローバル化に対応できる人材の育成を急務と捉えているとともに、アジアの中のシンガポールをより意識する方針があるようです。

中等教育5年間の間に一度はシンガポールを出て世界を体験する様に制度化され、特にアジアを体験することが求められています。

第18回国際交流会議(日経フォーラム)で小島順彦 三菱商事会長が強調していらしたように、世界のConnectivityを理解できる人の育成がどこの国でも急務だと痛感しました。

最後に今回の機会をお与え頂いた、観ネットインバウンド部会大分支部及びJTB九州の皆様にご感謝申し上げます。